

公開シンポジウム

真面目で 楽しい、 専門知識の 世界

2024年10月20日(日)
13時00分～17時00分

会場：北海道大学理学部5号館 大講堂

ミュージアムの
底力と、
かつこよさ。



どんなプログラム？

2022年度に始まった
「北海道大学プラス・ミュー
ジウム・プログラム」は、人
社会が抱える様々な課題に
「ミュージアムをプラスする」方
法を考え、学ぶプログラムです。

今回のシンポジウムで取り上げる
テーマは、ミュージアムの専門知。
それぞれの専門性をとことん突き詰め
ながら、ときにはマニアックな世界に
来館者を誘う、魅力的なミュージアム
の裏側に迫ります。
登場する館種は、水族館、天文学館、
昆虫館と、多種多様です。各館の試み
を通じて、お堅い内容でもやわらかく
解きほぐす、ミュージアムという場の
「底力」を展望していきます。

専門知のあり方や専門家に対する信
頼が時に厳しく問われる今日の社
会のなかで、大学ともインター
ネットとも違う、ミュージアム
の知のあり方を再考する機会
になるはずです。いつか
ミュージアムで働きたい
方もぜひどうぞ！

パネリスト



井上 毅

(明石市立天文科学館館長
山口大学時間学研究所客員教授)

1969年生まれ。兵庫県姫路市出身。
名古屋大学大学院理学研究科修了。
旭高原元気村天文台を経て、1997
年より明石市立天文科学館学芸員。
2017年より現職。「世界天文年
2009」日本委員会企画委員、金環
日食限界線共同観測プロジェクト代
表、日本プラネタリウム協議会プラ
ネタリウム100周年記念事業実行委員長を務めるなど、天文教育普及
活動に取り組む。明石市立天文科学館のオリジナルキャラクター、「軌
道星隊シゴセンジャー」に登場する「ブラック星博士」のマネージャー
も務める。著書に、『時の記念日のおはなし(明石市立天文科学館)』『時
間の日本史(小学館)』(共著)『星空をつくる機械プラネタリウム100
年史(KADOKAWA)』。



北野 伸雄

(磐田市竜洋昆虫自然
観察公園 館長)

1985年生まれ。静岡県浜松市出身。サッカー少年かつ昆虫少年だっ
た小学校時代に「リーガーを夢見るも、中学の時に己の実力を知
り挫折。昆虫の研究者を夢見て九州大学農学部へ進学。チャパネ
アオカメムシの卵に卵を産み付ける寄生蜂について研究し、大学
院修士課程に進学するも己の弱さを知り挫折。大学院を中途退学
し、昆虫とは全く関係のない仕事へ。20代後半までぶらぶらして
いたが、たまたま磐田市竜洋昆虫自然観察公園ホームページで「ア
ルバイト募集」の文字を見つけ、即応募。2014年、同園に就職。
2020年、館長就任。毎週水曜にやるフットサルが生きがいの一つ。

若月 元樹

(むろと廃校水族館 館長)



1974年広島県生まれ。
高2の時、沖縄の祖母から、「徒歩
圏内に大学があるさー」と誘われ、
沖縄へ渡り、祖母宅から沖縄大学へ
通う。学生時代は山や海へ通う日々。
ウミガメの産卵に遭遇し、「また見
たい」と図書館で文献を読み漁る。
しかし、記述内容に疑問を抱き、沖
縄海洋博記念公園水族館(現：美ら
海水族館)に通うように。そこで論文の紹介や調査の同行等でウミガメ
について多くのことを学ぶ。「趣味は職業にしない」と大学卒業後はウ
ミガメから足を洗う。ところが、わずか3年で脱サラして大学院へ。そ
の後、日本ウミガメ協議会に就職。八重山の黒島にある黒島研究所を経
て、2018年に高知県室戸市でむろと廃校水族館を立ち上げ、館長となる。

司会・コーディネーター

今村 信隆 (北海道大学文学研究院 准教授)

+ お申し込み方法

参加無料。事前のお申し込みが必要です。締切は、2024年10月18日(金)13:00です。
右のQRコードより申し込みフォームへとお進みください。

Zoomによるオンライン配信もあります
右のフォームからお申し込みできます

お申込みは
こちらから！



+ お問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目
北海道大学文学研究院 内
プラス・ミュージアム・プログラム事務局
Mail plusm@let.hokudai.ac.jp
TEL 011-706-3017

